

Salvador
Dalí
œuvre gravé

版画展

奇想のイメージ

[開館時間] 9:00～17:00 (展示室入場は16:30まで)

[休館日] 水曜日

[会場] 長野県立美術館 展示室1・2・3

2024

7 13 (土) sat


9 16 (月) (祝) mon

 長野県立美術館
Nagano Prefectural Art Museum

[主催] 長野県、長野県立美術館、信濃毎日新聞社、(公財)信毎文化事業財団

[共催] 長野県教育委員会、信越放送

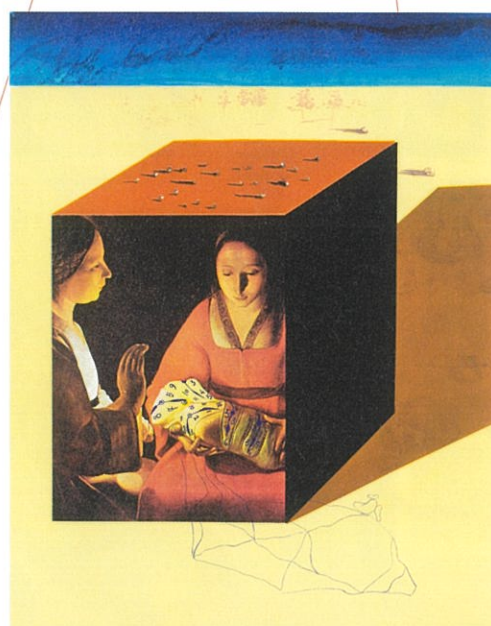
[企画協力] 株式会社創絵社

[後援] スペイン大使館 Embajada de España 、長野市、長野市教育委員会、長野商工会議所、善光寺、長野県芸術文化協会、(公財)八十二文化財団、(公財)ながの観光コンベンションビューロー、JR 東日本 長野支社、NHK 長野放送局

シュルレアリスムを代表する画家として知られるサルバドール・ダリ（1904-1989）。スペインの小さな町フィゲラスで生まれたダリは、幼い頃から驚くべき絵の才能をみせ、マドリードの美術学校に進みます。その後、パリにおけるピカソやミロ、ブルトンらとの出会いをきっかけにシュルレアリスムの運動に加わり、ダブルイメージや緻密な表現を用いた独自の作風に到達します。その才能は絵画制作にとどまらず、版画、彫刻、オブジェ、舞台芸術、宝石デザイン、広告デザイン、映画、文筆と、幅広い芸術分野において発揮されました。なかでも、50代後半から本格的に取り組んだ版画に対する愛好と造詣は深く、生涯に1600点以上の版画作品を残しています。そこには「やわらかい時計」や「変形した肉体」など、ダリ特有のイメージが継承される一方で、エッチングから描き出す柔らかな線や卓抜したデッサン力からは、ダリの繊細な感性を垣間見ることができます。本展では、1960年代から70年代に精力的に制作された版画を中心に、晩年までの作品約200点を展示します。20世紀最大の奇才といわれるダリの真髄をご堪能ください。

ダリ 版画展

奇想のイメージ



4.

Salvador
Dalí
œuvre gravé

1. 《煉獄篇33:浄められたダンテ(第33歌)》
(ダンテ・アリギエーリ『神曲』より) 木口木版 1963年
 2. 《もう一度出ておいで、シュラムのおとめ。もう一度出ておいで、姿を見せておくれ(7:1)》
(『雅歌』より) エッチング、ステンシル、金粉 1971年
 3. 《蝶に囲まれたダリのシュルレアリスムの肖像》
(『シュルレアリスムの思い出』より) フォトリトグラフ、エッチング 1971年
 4. 《シュルレアリスムの時計への思いやり》
(『シュルレアリスムの思い出』より) フォトリトグラフ、エッチング 1971年
- © Salvador Dalí, Fundació Gala-Salvador Dalí, JASPAR Tokyo, 2024 E5527